(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2005-231662
(P2005-231662A)
(43)公開日　平成17年9月2日(2005.9.2)

(51)Int.Cl.[7]	F I		テーマコード（参考）
B65D 83/76	B65D 83/00	K	3E014
A45D 34/04	A45D 34/04		

審査請求 未請求　請求項の数 2　OL　（全 6 頁）

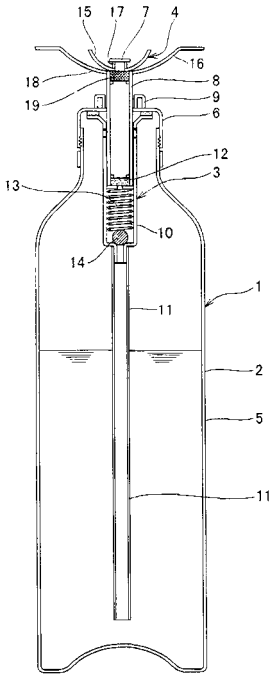
(21)出願番号　特願2004-42520(P2004-42520)
(22)出願日　平成16年2月19日(2004.2.19)

(71)出願人　504064630
川端　久子
東京都練馬区大泉学園町３－２３－１０
(74)代理人　100109966
弁理士　伊藤　哲夫
(72)発明者　川端　久子
東京都練馬区大泉学園町３－２３－１０

Fターム(参考)　3E014 PA01 PB03 PB09 PD11 PE01 PE06 PE10 PE11 PE14 PE16 PF06 PF10

(54)【発明の名称】水滴吐出容器

(57)【要約】
【課題】
左右が密着された薄手のビニール袋の開口部より収納のための開口を得るための有効な手段として、指先を湿らすことが行なわれているが、唾や濡れ不織布、濡れタオル等によって行なわれているため不衛生な面もあった。また、必要以上の水が指先に付着してしまうことも多く、適度な湿りを得る程度の水の供給ができなかった。更に、化粧水の場合、各人に応じた化粧水の適量を緩やかに吐出させることが困難であった。本発明は、上記欠点を解決したものである。
【解決手段】
水或いは化粧水を収納する容器本体、該容器本体内に配設するポンプ装置及び対象物湿潤手段とより構成し、該ポンプ装置は、吐出管と該吐出管内を摺動する吐出液導管とでその外形を構成し、該吐出液導管の上端部に該対象物湿潤手段を配設し、下端部には水吸収体を配設し、該吐出管内の水吸収体の下方部にはバネ体及び球体を配設し、該対象物湿潤手段は、吐出液導管と連動する押圧部及び液受皿とを有し、該押圧部及び液受皿との連結



【特許請求の範囲】
【請求項１】
水或いは化粧水を収納する容器本体、該容器本体内に配設するポンプ装置及び対象物湿潤手段とより構成し、該ポンプ装置は、吐出管と該吐出管内を摺動する吐出液導管とでその外形を構成し、該吐出液導管の上端部に該対象物湿潤手段を配設し、下端部には水吸収体を配設し、該吐出管内の水吸収体の下方部にはバネ体及び球体を配設し、該対象物湿潤手段は、吐出液導管と連動する押圧部及び液受皿とを有し、該押圧部及び液受皿との連結部には吐出液導管と連通する貫通孔を形成してなることを特徴とする水滴吐出容器。
【請求項２】
水吸収体をミクロポーラスを有するウレタンスポンジとしたことを特徴とする請求項１に記載の水滴吐出容器。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明の水滴吐出容器は、指先又はビニール袋等の対象物に水或いは化粧水を潤す水滴吐出容器に関するものである。
【背景技術】
【０００２】
近年、スーパー等の店舗において、レジを済ませた買物客は、魚の切り身、肉製品、惣菜等の水気のある品物を持ち帰るために該店舗内に常備されているビニール袋にそれらの品物を収納する作業をすることが一般的となっている。
【０００３】
しかし、該ビニール袋はロール状に巻かれている極めて薄手のもので、それを引き出しながら使用するため、収納のための開口部は押し付けられ且つ静電気により左右の開口片が密着状態となっており、更に、開口片となるビニール面は平滑な仕上げ面となっているので、品物を収納するために左右の開口片を指先で移動させても滑動してしまい、迅速に開口することは困難であった。
【０００４】
また、化粧水は容器よりポンプ手段を利用して手の掌に付与したり、容器を傾け或いは傾けた容器を振ること等により、該容器内の化粧水を吐出させている。
【特許文献１】実開平７－２０１１２号公報
【発明の開示】
【発明が解決しようとする課題】
【０００５】
上記ビニール袋を迅速に開口するには、指先を湿らせることが開口のための摩擦を得る手段として有効な手段となるが、従来よりそのための手段として唾により指先を湿らせたり、用意されている濡れ不織布や濡れタオル等を使用することが行なわれているが、時間帯によっては乱雑に置かれ、不衛生な印象を与える時もある。
【０００６】
また、容器より化粧水を手の掌にたらすとき、ポンプ手段のものは必要以上に吐出してしまうことや勢いよく吐出することが多く、或いは容器自体を傾けただけでは化粧水が吐出されず、容器を強く振ること等が行なわれており、最適な量を簡単に得ることができなかった。
【０００７】
本発明は、上記欠点を解決するもので、ビニール袋の開口手段を容器とすることにより乱雑となることを防止し、且つ指先又はビニール袋等の対象物に微量の水を与えるための水滴吐出容器を提供するものである。
【０００８】
また、容器からの化粧水の吐出量を制限すること及びその吐出のための勢いを緩和することにより、適量な化粧水を指先に与えることを可能とする水滴吐出容器を提供するもの

である。
【課題を解決するための手段】
【０００９】
本発明は、上記目的を達成するため、
水或いは化粧水を収納する容器本体、該容器本体内に配設するポンプ装置及び対象物湿潤手段とより構成し、該ポンプ装置は、吐出管と該吐出管内を摺動する吐出液導管とでその外形を構成し、該吐出液導管の上端部に該対象物湿潤手段を配設し、下端部には水吸収体を配設し、該吐出管内の水吸収体の下方部にはバネ体及び球体を配設し、該対象物湿潤手段は、吐出液導管と連動する押圧部及び液受皿とを有し、該押圧部及び液受皿との連結部には吐出液導管と連通する貫通孔を形成してなる水滴吐出容器を特徴とする。
【００１０】
また、上記水吸収体をミクロポーラスを有するウレタンスポンジとした水滴吐出容器を特徴とする。
【発明の効果】
【００１１】
本発明は、簡単な装置により微量の水を指先又はビニール袋等の対象物に吐出させることができ、スーパー等に置かれているロール式のビニール袋の左右の開口片が密着された開口部を容易に開けることが可能となった。また、適量な化粧水を手の指先や手の掌に付与することが可能となった。
【００１２】
更に、上記対象物を湿らすに際し、吐出液導管内に水吸収体を配設したことにより、水の上昇量を調整することができ、多量の水が上昇することがなく、対象物を湿らす程度の水量を得ることが可能となった。
【００１３】
また、当該箇所において、常時水を吸収蓄積した状態を確保することができ、水滴吐出容器の使用間隔があいた状態であっても、当該箇所が水を吸い上げる呼び水的役割を構成することができ、水或いは化粧水（以下、単に水という）の上昇をスムーズに行なうことが可能となった。
【発明を実施するための最良の形態】
【００１４】
以下に本発明の水滴吐出容器をその実施例に添って説明する。
【実施例１】
【００１５】
本発明の水滴吐出容器１は、図１に示すように水を収納する容器本体２、該容器本体２内に配設するポンプ装置３及び対象物湿潤手段４とより構成している。
【００１６】
上記容器本体２は、ペットボトルやその他の様々な容器が使用でき、水が収納され、上方部が開口して水を吐出させることが出来る機能があれば良い。
該容器本体２は、水収納部５と開口部を開閉する蓋６とより構成している。該蓋６はその内壁に開口部外周壁に形成された溝に螺合する溝を形成している。
【００１７】
上記ポンプ装置３は、図１及び図２に示すように、下記する対象物湿潤手段４を兼用する押圧部７、該押圧部７の下部より下方へ延出した
吐出液導管８、該吐出液導管８の可動範囲を規制し、且つその可動を安定化させる容器本体２と連結するキャップ９、該吐出液導管８をその内側で上下に摺動させる吐出管１０及び該吐出管１０より下方へ延出した吸い上げ管１１とよりなり、更に該吐出液導管８の内側下端部には水吸収体１２、該吐出液導管８の下端部と吐出部１０との間隙に配設したバネ体１３及び該バネ体１３の下端部に形成した球体１４とより構成している。該水吸収体１２は、スポンジ状のものが良く、メラミンフォーム或いはミクロポーラスを有するウレタンスポンジ、例えばルビーセル（登録商標）等が最適であり、水の上昇量の調整及び初

動時における水の上昇をスムーズに行うことを可能とする。

【００１８】

上記対象物湿潤手段４は、押圧部７、該押圧部７を囲繞するように形成した液受皿１５及び該液受皿１５より溢出した水を受ける溢液受皿１６よりなり、更に、該押圧部７と液受皿１５との間には、該液受皿１５上に溢れた水を吐出液導管８へ戻すための貫通孔１７を形成する。

更に、何等かの異常により勢い良く吐き出し、該液受皿１５の壁を越えて溢液受皿１６へ溢れた水は、該溢液受皿１６と吐出液導管８との付根部に形成した貫通孔１８より吐出液導管８へ戻される。

【００１９】

また、吐出液導管８の上端部に不織布、織布等の不純物の除去及び水昇量の調整手段となる網状体１９を設けることができる。

【００２０】

上記ポンプ装置３及び対象物湿潤手段４の作用を以下に説明する。

通常は、図１で示すように、バネ体１３の弾発力により、吐出液導管８は上昇しており、従って、それに連動する対象物湿潤手段４も上昇している。押圧部７を押圧すると、該吐出液導管８が下降し、バネ体１３を圧縮することになる。同時に、吐出液導管８及び吐出管１０内の空間圧力が上昇する。

当該状態から押圧部７への押圧を停止すると、該バネ体１３の弾発力により吐出液導管８が上昇し、該管内が減圧され、吐出管１０の底部に配設した球体１４が上昇し、容器本体２内の水が吸い上げ管１１内を上昇し、液受皿１５の位置まで到達することになる。

【００２１】

その際、吐出液導管８の下端部に配設した水吸収体１２により、上昇水を吸収することになり、急激に上昇する水勢を緩和することができると同時に、上昇水の一部を当該水吸収体１２により吸収することになり、上昇する水量を調整することが可能となる。

更に、該吐出液導管８の上端部に配設した網状体１９により上昇水の勢いを再度緩和することができ、水が大量に吹き出すことを防止している。

従って、押圧部７の操作により、該押圧部７に到達した水は小量となり、指先やビニール袋等の対象物に湿潤を与える程度の吐出量となる。

また、使用者が使用する間隔があいても、上記水吸収体１２に水が吸収され留まっているので、再開後の水の上昇をスムーズに行なうことが可能となった。

【００２２】

該押圧部７より吐出した水は、押圧した指先やビニール袋等の対象物を潤すことになり、スーパー等に置かれているロール型のビニール袋の開口部の左右の開口片を開くことを容易とする。

また、残余の水は液受皿１５の底部と押圧部７との境目に形成された貫通孔１７より吐出液導管８へ戻されることになる。

【００２３】

更に、上記液受皿１５を飛び越えた水は、溢液受皿１６により受けることができ、該液受皿１５と溢液受皿１６との間の付根部に形成した貫通孔１８により、上記同様、吐出液導管８へ戻されることになる。

該吐出液導管８へ戻される場合、網状体１９を貫通することになり、該網状体１９によりチリ等の不純物は除去されることになる。該網状体１９に抗菌性の不織布等を採用することにより雑菌を除去することが可能となる。

【００２４】

上記水滴吐出容器１は、店舗や家庭等で使用されることになるが、対象物が押圧部７と接した際に転倒を防止する手段を容器本体２の底部に形成することができる。転倒防止手段としては、例えば、重量のあるものの付着や吸盤面を有する固定手段が有効である。

また、固定手段として、別途載置平面上に配置した凹部に嵌合するようにすることもできる。例えば、ゴム状の凹部であれば滑り止めの役目をすることも可能である。更に、固

定手段として強固なものを使用することにより盗難防止効果を成すこともできる。

【図面の簡単な説明】

【００２５】

【図１】本発明の水滴吐出容器の縦断面図。

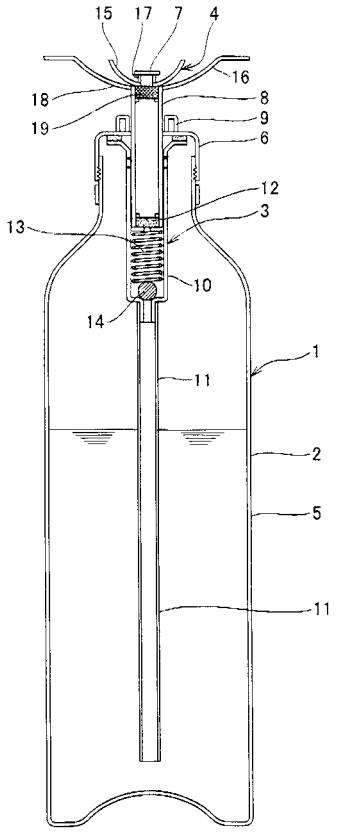
【図２】本発明のポンプ装置及び対象物湿潤手段等を示す縦断面図。

【符号の説明】

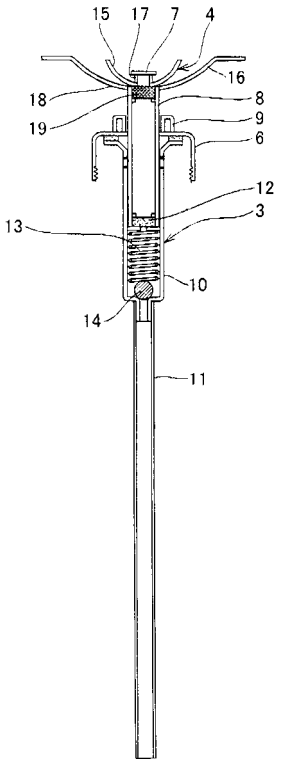
【００２６】

１．　水滴吐出容器
２．　容器本体
３．　ポンプ装置
４．　対象物湿潤手段
５．　水収納部
６．　蓋
７．　押圧部
８．　吐出液導管
９．　キャップ
１０．　吐出管
１１．　吸い上げ管
１２．　水吸収体
１３．　バネ体
１４．　球体
１５．　液受皿
１６．　溢液受皿
１７．１８．貫通孔
１９．　網状体

【図１】



【図２】



フロントページの続き

【要約の続き】
部には吐出液導管と連通する貫通孔を形成してなることを特徴とする水滴吐出容器。
【選択図】図１